

令和 3 年 5 月 30 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H01923

研究課題名(和文)「ユダヤ文献」の構成の領域横断的研究 伝統文献概念の批判的再構築に向けて

研究課題名(英文) Interdisciplinary Research on the Creation of Jewish Literature; Toward a Critical Reconstruction of the Traditional Concept of Literature

研究代表者

勝又 直也 (Katsumata, Naoya)

京都大学・人間・環境学研究科・准教授

研究者番号：10378820

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 34,610,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、様々なユダヤ文化を緊密に結びつける「ユダヤ文献」(聖書、ミシュナ、タルムード、ミドラシュ、ピユートなど)を批判的に再構築することによって、ユダヤ文化の一体性、ユダヤ史の連続性、ユダヤ人の同一性の基盤を再考することを目指した。具体的には、一定の時代区分と、その時代に参照される「ユダヤ文献」を支える技術的要件によって、4つの研究班(古代-口承メディア班、中世-写本メディア班、近世-印刷メディア班、近代-マスメディア班)を組織し、局限されたコンテキストにおける「ユダヤ文献」の構成様式について分析し、「ユダヤ文献」の参照が文化的な布置において果たした役割を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義：「ユダヤ文献」に関する最先端の国際的共同研究と密接にからめる形での推進。イブン・アビトゥールという典礼詩人の学術校訂版を作るうえで、本研究の成果に基づき、彼の作品を保存している二つの「原典」であるゲニザ文書(エジプト)とマハソール(ヨーロッパ、北アフリカ)との間の差異や矛盾の問題を解決した。

社会的意義：公開シンポジウムの開催。ユダヤ教の中でも周辺的な「ユダヤ文献」(ユダヤ版「イエス伝」と言える『トルドット・イエシュ』や、ユダヤ教への改宗で知られるハザール王国に関するイエフダ・ハレヴィの『クザリの書』など)について、最新の研究紹介とその重要性について、広く一般社会に向けて発信した。

研究成果の概要(英文)：Our question in this project was to ask if there really is no such thing as a common traditional literature, which has acted as a foundation for the unity of Jewish cultures, for the continuity of Jewish history, and for the identity of the Jewish people. For that purpose, we tried to reconsider more carefully the concept of literature in Judaism and, by so doing, to unite various, often fragmented, aspects of Jewish cultures throughout regions and ages. The project was carried out by the four research teams, divided according to the period of time, and also to the type of technical tools transmitting this literature; the ancient period (oral media), the medieval period (manuscript media), the early modern period (print media), the modern period (mass media). Each team tried to understand the way how the Jewish literature was created within a specific local context, and also to clarify the role of this literature within its own cultural setting.

研究分野：ユダヤ学

キーワード：ユダヤ学 ユダヤ文学 ユダヤ教

1. 研究開始当初の背景

(1) ユダヤ文化の共通基盤に関する先行研究

古代から現代にいたるまで、ディアスポラのなかで形成されてきたユダヤ文化は、多様な側面を持つ。これを断片的な現象の単なる群れとしてではなく、一貫した文化的営為として捉えるための基盤は、どのようなものだろうか。近年まで、ユダヤ文化の共通基盤と見なされてきたのは、ヘブライ語聖書、ミシュナ、タルムード等を軸とする、ユダヤ教の伝統文献であった。S.W. Baron, *The Jewish Community* (1942)、J. Katz, *Tradition and Crisis* (1958) といった著作は、そうした伝統文献が時代・地域を問わず齊一的に共有されていたという前提にたち、古代から近代まで、幅広い地域で共有されたユダヤ文化の社会的基盤を明らかにしようとするものである。

近年興りつつある新たな動きは、ユダヤ文化の「共通基盤」としての伝統文献に対する異議申し立てとして特徴づけられる。Israel Jakob Yuval, *Two Nations in Your Womb* (2000)、Yosef Kaplan, *Kehal Israel: Jewish Self-Rule Through the Age* (2004)、Andreas Gotzmann, *Die Jüdische Autonomie in der frühen Neuzeit* (2008) 等は、ユダヤ共同体と周辺社会との相互干渉に着目することで、伝統文献の規範性を相対化し、ユダヤ文化の形成を特定の地域・時代に固有のコンテクストに還元してゆくものだ。これらの研究の緻密さは、これまで自明なものと思われてきた伝統文献の権威性を揺るがすに至っている。

しかし、これらの研究を通じて、ユダヤ学の対象の総体としてのユダヤ文化の姿は、しばしば断片化される。Shlomo Sand, *When and How was the Jewish People invented?* (2008) が醸した物議は記憶に新しい。同書は近年の研究動向を「ユダヤ民族」の歴史的不連続性を強調するために利用し、結果として激しい反発を招いた。以上のような学術的背景の中で、ユダヤ文化を彩る多様な現象を、特殊で個別的なコンテクストに還元することの妥当性を認める一方で、ユダヤ文化を一体的に理解するための基盤について改めて考える必要性が感じられていた。

(2) 「原典」研究の限界

このユダヤ文化の「共通基盤」としての伝統文献が孕む問題に、我々は、上記の個別研究とは別の観点からもたどり着いた。本研究課題に先行する研究課題(2013年度～2015年度、基盤研究(A)「ユダヤ学史と原典資料の複合研究 政治的・宗教的制約のない研究基盤の確立にむけて」課題番号 25244016)は、ユダヤ文化の理解の基盤とするべき伝統文献の「原典」を、学術校訂版の編成作業を批判的に振り返りながら割り出そうとする試みであった。しかし、この過程で行き当たったのは、ユダヤ文化の多様な現象の背後に、「原典」の齊一的な実在を仮定することの困難さであった。19世紀に提唱されたユダヤ学は、文献学的批判を通じて数々の「原典」の姿を復元してきた。しかし、「原典」が批判校訂を経て初めて現れるということは、それ以前のユダヤ文化は、「原典」とは別の文献的リソースに拠って成立していたということをも含意する。文献学が伝統文献のオリジナルな姿をどれほど精密に復元しても、伝承の過程において翻訳され、要約され、引用され、注解されることで、様々に変容した伝統文献の形は明らかにはならない。

この先行研究課題の開始当初、我々はユダヤ学自身の所産である「学術校訂版」とは別の「普及版」を基盤として、日本におけるユダヤ学の文献的基礎を固めることができるのではないかと、という想定を持っていた。しかし、この「普及版」それ自身が、ユダヤ学の「校訂版」に対抗する形で、主として宗教的伝統を奉ずる宗派を中心に、近代になってようやく編まれたものであることも、研究の途上で明らかになった。実のところ、ある特定の時代に伝承された一群のテキストをもって「原典」とみなし、そこに一定の伝統的権威を与える所作は、ユダヤ学の勃興と、「普及版」の編纂以前から、已むことなく行われてきたユダヤ人らの振る舞いである。以上のことから、ディアスポラ・ユダヤ社会の局所的な環境下における「原典」の構成を捉えることの必要性が明確となった。

2. 研究の目的

本研究は、ユダヤ文化の形成基盤としての伝統文献の概念を刷新し、専門分化した個別研究の成果を連続的に理解するための基盤を形成することを目的とする。従来、聖書やミシュナ、タルムードといったユダヤ教の伝統文献は、離散ユダヤ社会における共通の文化的基盤とみなされてきた。しかし、伝統文献の共有という前提は、これまで無批判に用いられてきたにすぎず、研究の緻密化・専門化・学際化のなかで多様に描き出され、断片化の様相さえ呈しているユダヤ文化の諸相を十分な仕方で包摂できていない。本研究は様々なユダヤ文化を緊密に結びつける文献的伝統を批判的に再構築することによって、ユダヤ文化の一体性、ユダヤ史の連続性、ユダヤ人の同一性の基盤を再考することを目指す。

注視すべきは、「原典」とは異なる形で伝承されたにせよ、また従来想定されていたほどの規範性を持たなかったにせよ、ユダヤ人たちは伝統文献への参照を繰り返し、そこに自らの文化の固有性を求めたという事実である。ここから現れてくるのは、ユダヤ人が「原典」とは異なる仕

方で参照した伝統文献はどのようなものだったのか、また、周辺の諸文化がユダヤ人の生活を深く条件づけるなかで、そうした伝統文献への参照はどのような役割を果たしていたのか、という問いである。参照が行われる都度、注釈が付され、並行記事が引用され、伝統文献の構成は変容してゆく。その都度の状況下で「ユダヤ的なもの」のよりどころとして参照された一群の文献を、我々は「ユダヤ文献」と呼ぶ。本研究課題の具体的な目的は、A) 局限されたコンテキストにおける「ユダヤ文献」の構成様式、B) 「ユダヤ文献」の参照が文化史的な布置において果たした役割、この2点を明らかにすることである。

3. 研究の方法

本研究課題は、ユダヤ学の諸領域の専門研究者によって共同で進められる。一定の時代区分と、その時代に参照される「ユダヤ文献」を支える技術的要件（いわゆるメディア）によって、4つの研究班を組織する。

(1) 古代 - 口承メディア班

古代において参照される「ユダヤ文献」は、主として口承メディアによって伝達される。このメディアの特性は、伝達されるものの流動性である。固定的な参照枠はヘブライ語聖書以外には未だ存在せず、またその聖書さえ、キリスト教徒と共有されていた。ギリシャ・ローマの伝統がユダヤの装いを持って文献に入り込み、或いはユダヤ教の律法釈義が、教父たちの説教に直接翻案されてゆく。ユダヤ社会と非ユダヤ社会が未だ完全には分離しないこの環境下で、「ユダヤ的なもの」はどのように構想されたのか。本研究班はこの点を重点的に掘り下げる。

(2) 中世 - 写本メディア班

中世において、ヘブライ語・アラム語文献を中心とする文献はユダヤ社会に固有の文化的基盤として機能し始めた。しかし、写本メディアは本性上多様性を許容するものであり、参照される「ユダヤ文献」は、イラクからスペインに至る地域的伝統に沿って様々な構成を持っていた。本研究班では、イスラーム法思想、イスラーム・ギリシャ哲学、或いはキリスト教スコラ哲学等の周辺文化を摂取し、或いはそれと競合しながら、各地のユダヤ社会が自らの固有性を求めた基盤を、多面的に剔出することを狙う。

(3) 近世 - 印刷メディア班

近世における活版印刷技術の普及は、「ユダヤ文献」が参照される形態を劇的に変容させた。印刷メディアが持つ規格性は、一方では「ユダヤ文献」の多様な構成を抑圧する方向に作用したが、他方でその大規模な流通によって、写本において伏在していた伝統の多様性を露呈させることになった。ここから生じるのは、何を「正統」とみなし、何を「異端」とみなすか、という政治的な問いである。本研究班は、文献の正統性を巡るユダヤ教内部の政治的力学、ならびにそれが周辺社会に対して持っていた関係を主要な論点として研究を進める。

(4) 近代 - マスメディア班

「ユダヤ文献」を巡る状況は、近代において特殊な様相を呈する。一方では、ユダヤ学が勃興し、文献学的批判による伝統文献の「原典」の復元、いわばユダヤ文化の基礎への無媒介の接触が試みられる。他方では、ユダヤ人が「ユダヤ的なもの」を求める参照の場が、伝統文献から新聞・雑誌における「読み物」へと移行してゆく。ユダヤ文化の文献的基礎は、歴史を通じて伝承されてきた諸文献から、一方では非歴史的な「原典」そのものへと、他方では共時的なユダヤ人の生活を切り出して伝えるマスメディアへと、次第に移行していった。並行して展開されるこの二つの過程はどのような関係にあるのかを明らかにする。

4. 研究成果

本研究課題の当初の研究期間は2016年度～2019年度の4年間であった。最終年度である2019年度においては、研究全体の総まとめを行う予定であった。ところが、2020年1月以降、世界全体がコロナ禍という未曾有の危機に見舞われた。本研究課題も、研究成果のまとめのために最も重要である最後の三か月間の活動がほぼ停止してしまうという大打撃を受けた。よって、補助金の一部を2020年度に繰り越すことで、できるだけ目に見える形で研究成果を残すことを試みた。結果的には、現時点（2021年6月）でもコロナ禍の影響はいまだに続いており、本研究課題において最も重要な側面の一つである国際的な研究活動（海外への資料調査、海外の研究者との共同研究など）は、十分に回復したとは到底言えない状態である。そのような中でも、5年間にわたる本研究課題が当面達成することのできた重要な成果として、以下の5点を挙げたい。

(1) 中世の「ユダヤ文献」：ゲニザ文書とマハゾール、エジプトとヨーロッパ

本研究課題が掲げた二つの目的は、A) 局限されたコンテキストにおける「ユダヤ文献」の構成様式、B) 「ユダヤ文献」の参照が文化史的な布置において果たした役割、この2点を明らかにすることであった。この点で極めて重要だと思われる「ユダヤ文献」に関する国際共同研究を、

大いに進めることができた。ヨセフ・イブン・アビトゥールというパイタン（ヘブライ語典礼詩人）は、10世紀中ごろスペインのメリダにて生まれ、コルドバのイエシバー（ユダヤ教学塾）にて学んだ。次期イエシバー長の座を巡る権力争いに敗れた結果、破門を宣告されたイブン・アビトゥールは、スペインの地を離れ、エジプトのフスタート（カイロ旧市街）にて典礼詩人として活動した。彼の作品が各地のユダヤ共同体において大いに広まっていたことは、膨大な数の写本が残っていることから分かる。この重要な詩人についての国際共同研究を、イスラエルのエルサレム・ヘブライ大学教授のヨセフ・ヤハロムと共に推進した（Joseph Yahalom and Naoya Katsumata, “Ibn Abitur between Fustat and Córdoba - Two Jewish Cultural Centers at the Turn of the Eleventh Century”, Joachim Yeshaya, Elisabeth Hollender and Naoya Katsumata (eds), *The Poet and the World, Festschrift for Wout van Bekkum on the Occasion of His Sixty-fifth Birthday* (Studia Judaica 107), Berlin and Boston: DeGruyter, 2019, pp.29-40)。

この詩人が残した膨大な数の典礼詩（ピユート）（約1000作品）を詳細に研究する過程で明らかになったのは、大きく分けて2つの経路で彼の詩が保存されているということだ。第一には、19世紀末にエジプトのカイロのシナゴグにて発見され、今日のピユート研究において最も重要な「原典」とみなされている「ゲニザ文書」である。それと同時に、彼の作品は、中世のヨーロッパや北アフリカ各地のシナゴグで使われていた「マハゾール」と呼ばれる祈禱書の写本においても多く保存されている（「ゲニザ文書」発見以前は、「マハゾール」がピユート研究者にとっての唯一の「原典」だった）。我々研究者が、この2つの異なる種類の「原典」をもとにして再構築を試みるイブン・アビトゥールのピユートの「学術的校訂版」とは、いったい何なのか。「ゲニザ文書」と「マハゾール」とでは、写本自体が書かれた場所や時代も異なるし（エジプト／ヨーロッパ）、そこに保存されているピユートのジャンルも違うことが明らかになっていった（ゲニザ文書では、ヨツロットのような安息日ごとに書かれた彼のピユートが、マハゾールでは、新年に詠まれたスリホットや仮庵の祭りに詠まれたホシャアノットという、彼の代表的なジャンルのピユートが保存されている）。もちろん、個々の写本は、イブン・アビトゥール自身の様々な活動の段階（スペイン エジプト）、さらに彼の死後における彼の作品の伝承における様々な段階（エジプト ヨーロッパ・北アフリカ）を反映している。こういった現存する写本を全て集めて「校訂版」を作るとはどういうことなのか。本研究課題において中心的に論じられたこの視点をもとにして、イブン・アビトゥールの学術的校訂版は2021年度中にも出版予定である（Joseph Yahalom and Naoya Katsumata, *Liturgical Poetry of Rabbi Yosef Ben Izhak Ibn Abitur*, Volume One: Yotserot, Volume Two: Selihot, Volume Three: Qedushtot, Jerusalem: Ben-Zvi Institute, 2021, 2100 pp.）。

(2) 中世の「ユダヤ文献」：文学的原典と記録的原典、宗教と政治

イブン・アビトゥールとほぼ同時期のパレスチナの典礼詩人に、シュムエル・ハシュリシがいる（10～11世紀）。パレスチナのイエシバーで第3位の地位（イエシバー長のガオン、第二位の裁判官に続く地位）にまで出世したこの詩人は、先述のイブン・アビトゥールとは違って、基本的にパレスチナを中心に活動しており、彼の作品のほぼ全ては「ゲニザ文書」のみで保存されている。この詩人の現存するピユート約700作品の学術的校訂版（現代ヘブライ語）は、ヤハロム教授と共同研究の結果、すでに出版されている（Joseph Yahalom and Naoya Katsumata, *The Yotserot of Samuel the Third - A Leading Figure in Jerusalem of the 10th century*, Volume One: Introduction - Yotserot for Genesis, Exodus, and Leviticus, Volume Two: Yotserot for Numbers, Deuteronomy, and Festivals - Indices, Jerusalem: Yad Izhak Ben-Zvi, 2014, 1139 pp.）。彼のピユートのほぼ全てはゲニザ文書に保存されているわけだが、実はゲニザ文書の中には、こういった「文学的原典」の他にも、書簡や契約書といった「非文学的（記録的）原典」も存在する。そして、このような記録的原典にも、シュムエル・ハシュリシはたびたび登場するのだ。そこで、米国イエシバー大学のガブリエル・ワッサーマン博士を新たにメンバーに加えて、「文学的原典」と「非文学的原典」との関係性（そして、そこから垣間見ることのできる宗教と政治との関係性）という視点から、シュムエル・ハシュリシについて考察し直した著作を英語にて出版した（Joseph Yahalom, Naoya Katsumata and Gabriel Wasserman, *Political Power and Prayerful Poetry - The Life and Works of Samuel ben Hoshā'na* (Jerusalem, Turn of the Eleventh Century), Hebrew Texts with English Translation, Jerusalem: Carmel Publishing House, 2020, 412 pp.）。

(3) デジタル人文学と「ユダヤ文献」

これは、研究計画時には予測していたなかった新たな知見に基づく成果である。研究代表者や研究協力者らは、様々な国際学会（2018年7月ポーランド・クラクフで開催された欧州ユダヤ学会第11回大会、2019年7月ベルギー・ルーヴェンで開催された第9回中世ヘブライ文学コロキウム）に参加した。そういった中で、「ユダヤ文献」概念の刷新という本研究の趣旨と同様のプログラムが、デジタル人文学(DH)の枠組みのなかで、欧州において組織的実践の途についていることが明らかにされた。デジタル技術を駆使し、脱境界的に人文学文献のネットワークを構築するという構想は、単にユダヤ学のみならず、人文学一般の文献的基礎を問い直そうとしている。研究代表者は、長い間、オランダ・フローニンゲン大学教授のヴァウト・ファン・ベークムと共

同で、ピユート・ヘブライ語辞書の編纂に取り組んでいる。ピユートのテキストの中からピユートらしいヘブライ語の語彙を抽出するためには、それを取り出す「原典」の性質についても十分に意識を向けなければならない。本研究課題における「ユダヤ文献」に関する議論をもとにしながら、さらには、最新のデジタル人文学における知見も取り入れながら、「ピユート辞書」編纂のための準備をさらに進めた（Wout van Bekkum and Naoya Katsumata, “Aramaic in Piyyut: Intentions and Effects”, *Jewish Multilingualism in Late Antiquity and Early Middle Ages*, 2021 刊行予定）。

(4)国内の協力研究者との共同研究：古代から近代の「ユダヤ文献」

古代から近代までの「ユダヤ文献」に関して、研究分担者や研究協力者が個別に行った研究成果については、「5. 主な発表論文等」を参照していただきたい。社会一般に向けて発信力のある研究成果としては、以下の3つの公開シンポジウムを挙げたい。ユダヤ教自体の理解がいまだに十分ではない日本において、そのユダヤ学の中でもさらに周辺的とみなされてる種類の「ユダヤ文献」についての最新の研究を発信しつつ、実はこれらの文献は、他の近隣分野にとっても重要な側面を有していることを示した点で、非常に有意義であった。これらのシンポジウムの一部を含む、本研究課題の全体的な成果としての国内向けの論集の出版を目下準備中である。

2017年3月、本科研費主催で東京大学にて開催された公開シンポジウム「ユダヤ版『イエス伝』 史的イエスと文学的虚構の間」では、ユダヤ版『イエス伝』とでも言うべきテキスト、Toledot Yeshu を主題とした。「キリスト」として知られるイエスは、ひとりのユダヤ人だった。そのユダヤ人の教えは、従来のユダヤ教とは異なる宗教である「キリスト教」として発展を遂げ、やがて地中海からヨーロッパにかけての地域を席卷する。一方、この過程でキリスト教社会に取り囲まれることになったユダヤ社会には、長らくイエスについての別の伝承が息づいていた。歴史的証言と後代の想像とが入り混じるこの伝承のなかで、イエスはどのように描かれてきたのか。このシンポジウムでは、キリスト教社会との緊張のなかで生じた論争文学としてのその特性、文献としての成立過程やユダヤ固有の特徴、世俗化の進む近代以降のその評価のありようなどを、俯瞰的に再考することを試みた。

2018年3月、本科研費主催で東京大学にて開催された公開シンポジウム「『クザリ』 文学・哲学的創造とその伝承」では、イエフダ・ハレヴィ(c. 1075-1141)の『侮られた宗教についての論駁と論証の書』(通称『クザリの書』)を扱った。初期中世、コーカサスを中心に一大勢力を誇ったハザール王国と、その王侯のユダヤ教への改宗譚は、とりわけアーサー・ケストラの『第一三支族』の出版(1976)以降、よく知られるようになった。一方で、ユダヤ文献における伝統的なハザール王国のイメージを代表するのは、イエフダ・ハレヴィの『クザリの書』である。異教の王とその臣下のユダヤ教への改宗の物語は、ここでは異教に、異端に、そして哲学に対するラビ・ユダヤ教の伝統の立場表明という枠組みを通じて新しく語りなおされ、批判も孕みつつ、ユダヤ社会を越えて読み継がれていく。このシンポジウムでは、この書物の内実について改めて振り返るとともに、それが伝承され、後代のユダヤ文献を形作っていく過程の追跡を試みた。

2020年9月、京都ユダヤ思想学会主催でZoom開催された第13回学術大会シンポジウム「中世ユダヤ教聖書解釈の諸相 キリスト教世界とその周辺」には、本研究課題の代表者や協力者も多く参加・発表し、聖書というユダヤ文献の「元祖」が、中世のピユートや論争文学において受容される仕方について比較分析した。さらに、このシンポジウムは、本研究課題以降の研究が進むべき方向性を示すものでもあった。

(5)継承と発展

「1. 研究開始当初の背景」で述べたように、本研究課題は、先行する研究課題(2013年度~2015年度、基盤研究(A)「ユダヤ学史と原典資料の複合研究 政治的・宗教的制約のない研究基盤の確立にむけて」課題番号 25244016)を継承し、さらに発展させるものであった。具体的には、ユダヤ学史と原典資料との関係性を扱った先行課題に対し、本課題では「ユダヤ文献」の形成過程自体に焦点を当てた。さらに、本課題の成果に基づき、ユダヤ文献の「元祖」ともいえる「聖書」に焦点を絞り、「語り直し」という視点で古代から現代までの文献を比較分析するのが、次の研究課題である(2021年度~2024年度、基盤研究(A)「総合的な聖書の「語り直し」学 - 古代から現代のユダヤ文学における発展とその学際性」課題番号 21H04347)。このように、先行する研究課題で得られた知識の蓄積や知見を十分に生かしつつも、新たなテーマにも果敢にチャレンジすることで次の研究課題を進めている。研究課題間の継承・発展が有機的に行われていることも、重要な成果と言えよう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計40件（うち査読付論文 14件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Wout van Bekkum and Naoya Katsumata	4. 巻 68
2. 論文標題 Between Convention and Innovation: A Study of Thematic and Literary Features of Three Sedarim for Wayyosha of the tenth and eleventh centuries	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Jewish Studies	6. 最初と最後の頁 325-345
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Teppei Kato	4. 巻 50
2. 論文標題 Ancient Chronography on Abraham's Departure from Haran: Qumran, Josephus, Rabbinic Literature, and Jerome	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal for the Study of Judaism	6. 最初と最後の頁 178-196
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Teppei Kato	4. 巻 73
2. 論文標題 Hebrews, Apostles, and Christ: Three Authorities of Jerome's Hebraica Veritas	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Vigiliae Christianae	6. 最初と最後の頁 20-439
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Teppei Kato	4. 巻 64
2. 論文標題 Griego o hebreo? Agustin y Jeronimo sobre la traduccion biblica	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Aguvstinvs: Revista Publicada por los Agustinos Recoletos	6. 最初と最後の頁 173-185
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Teppei Kato	4. 巻 52
2. 論文標題 Review of Dan Rickett, Separating Abram and Lot: The Narrative Role and Early Reception of Genesis 13	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal for the Study of Judaism	6. 最初と最後の頁 127-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤哲平	4. 巻 58
2. 論文標題 老祭司、七人の少年、老母：『第四マカベア書』の殉教物語における哲学的しかけ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本の神学	6. 最初と最後の頁 30-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤哲平	4. 巻 15
2. 論文標題 『トーラー実践論 (4QMMT)』再考：本当に党派的テキストなのか？	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 一神教学際研究	6. 最初と最後の頁 23-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Teppei Kato	4. 巻 15
2. 論文標題 4QMMT Reconsidered: Is It Really a Sectarian Text?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of the Interdisciplinary Study of Monotheistic Religions	6. 最初と最後の頁 21-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志田雅宏	4. 巻 93
2. 論文標題 中世ユダヤ教民間伝承におけるキリスト教世界への対抗物語 - 改宗を語ることをめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 75-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志田雅宏	4. 巻 93
2. 論文標題 ヘブライ語年代記における第一回十字軍の迫害とユダヤ人の殉教	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 206-207
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志田雅宏	4. 巻 37
2. 論文標題 アブラハム・アブラフィアにおける真珠のたとえ話	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京大学宗教学年報	6. 最初と最後の頁 57-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志田雅宏	4. 巻 93
2. 論文標題 中世ユダヤ教民間伝承におけるキリスト教世界への対抗物語 - 改宗を語ることをめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 75-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平岡光太郎	4. 巻 7(2)特集号
2. 論文標題 マルティン・ブーバーのシオニズム思想の特徴	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 京都ユダヤ思想	6. 最初と最後の頁 154-166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李美奈	4. 巻 93
2. 論文標題 シモーネ・ルツァット『議論』に現れる近世ヴェネツィアのユダヤ教観念	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 537-561
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤耕史	4. 巻 11
2. 論文標題 「ヨセフは誰に売られたか？」をタルグムから考える	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 京都ユダヤ思想	6. 最初と最後の頁 142-152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤耕史	4. 巻 15
2. 論文標題 『死海文書』におけるアロン 擁護か批難かー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 一神教学際研究	6. 最初と最後の頁 37-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤耕史	4. 巻 9
2. 論文標題 古代世界のユダヤ教とシリア・キリスト教の聖書解釈 金の子牛像事件のモーセ像を例として	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 京都ユダヤ思想	6. 最初と最後の頁 5-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤耕史	4. 巻 35
2. 論文標題 神のこばをひとが読む ユダヤ教聖書解釈の一例	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 八事	6. 最初と最後の頁 54-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鴨志田聡子	4. 巻 39
2. 論文標題 イスラム地域のユダヤ教徒たち：カイロとイスタンブールの場合	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京大学言語学論集	6. 最初と最後の頁 145-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯郷友康	4. 巻 2019-2
2. 論文標題 笑の形 旧約聖書と笑い	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 福音と世界 特集：笑うキリスト教	6. 最初と最後の頁 18-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯郷友康	4. 巻 67
2. 論文標題 律法の門前 第5回: 説話の問題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 fad 関東神学ゼミナール通信	6. 最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯郷友康	4. 巻 68
2. 論文標題 律法の門前 第6回: 説話の問題-2	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 fad 関東神学ゼミナール通信	6. 最初と最後の頁 5-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯郷友康	4. 巻 17
2. 論文標題 ソロモンの偽装 後篇・裁断	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 立教大学日本学研究所年報	6. 最初と最後の頁 13-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 嶋田英晴	4. 巻 32
2. 論文標題 【書評】Mark R. Cohen, Maimonides and the Merchants: Jewish Law and Society in the Medieval Islamic World. University of Pennsylvania Press Philadelphia, 2017、『ユダヤ・イスラエル研究』第32号、2018、123-124	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ユダヤ・イスラエル研究	6. 最初と最後の頁 123-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青木良華	4. 巻 79
2. 論文標題 米大使館エルサレム移転がもたらした中東諸国と国際社会への波紋	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ラークだより	6. 最初と最後の頁 61-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市川裕	4. 巻 50
2. 論文標題 古代ユダヤ教の贖罪と悔い改め 心の内と儀礼	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 聖書学論集	6. 最初と最後の頁 23-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市川裕	4. 巻 33
2. 論文標題 <シンポジウム 古代後期のユダヤ教研究の諸相> 解題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ユダヤ・イスラエル研究	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市川裕	4. 巻 33
2. 論文標題 一神教の二つの流れとその歴史的源流	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ユダヤ・イスラエル研究	6. 最初と最後の頁 3-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市川裕	4. 巻 223
2. 論文標題 論説 和解に向けた現代ユダヤ思想	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 世界平和研究	6. 最初と最後の頁 59-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市川裕	4. 巻 53-2
2. 論文標題 祈りの聖都エルサレムの魅力	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊イスラエル	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市川裕	4. 巻 92(別冊)
2. 論文標題 近代ユダヤ教正統主義におけるコスモスとアンチコスモス	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 45-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Masahiro Shida	4. 巻 6
2. 論文標題 Beyond the Age of the Torah: Nahmanides (1194-1270) and Two Polemical Contexts	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Conference of Values in Religion	6. 最初と最後の頁 47-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志田雅宏	4. 巻 31
2. 論文標題 <書評>山本伸一著『総説カバラー』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ユダヤ・イスラエル研究	6. 最初と最後の頁 43-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志田雅宏	4. 巻 91
2. 論文標題 アブラハム・アブラフィアの預言論	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 262-263
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鴨志田聡子	4. 巻 39
2. 論文標題 イスラーム地域のユダヤ教徒：カイロとイスタンブルの場合	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京大学言語学論集	6. 最初と最後の頁 145-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ICHIKAWA Hiroshi	4. 巻 23
2. 論文標題 Prospects of Japanese Translation of the Babylonian Talmud	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 PaRDeS	6. 最初と最後の頁 183-198
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市川裕	4. 巻 2017-12
2. 論文標題 ユダヤ教徒は十戒をどう読んだか	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 月刊 福音宣教	6. 最初と最後の頁 24-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤耕史	4. 巻 31
2. 論文標題 書評 M. ハルバートル著、志田雅宏訳、『書物の民 ユダヤ教における正典・意味・権威』、教文館、2015年	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ユダヤ・イスラエル研究	6. 最初と最後の頁 39-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志田雅宏	4. 巻 7
2. 論文標題 ナフマニデスと『セフェル・イエツィラー』	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 京都ユダヤ思想	6. 最初と最後の頁 7-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤哲平	4. 巻 3
2. 論文標題 流氓ユダヤの神戸：ユダヤ難民と丹平写真俱	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 関西ソーカル	6. 最初と最後の頁 61-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計75件（うち招待講演 12件 / うち国際学会 26件）

1. 発表者名 Osawa, Koji
2. 発表標題 Dead Sea Scrolls and Other Biblical Interpretations concerning the Golden Calf Story
3. 学会等名 CISMOR Seminar & Workshop: "The Biblical Dead Sea Scrolls as Representing Variety in Judaism and Early Christianity" (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大澤耕史
2. 発表標題 ユダヤ教とキリスト教の罪認識 金の子牛像事件を例として
3. 学会等名 日本宗教学会第77回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Osawa, Koji
2. 発表標題 Distinction of Identity in Judaism and Christianity in Ancient Syria and Other Areas from the Perspective of Biblical Interpretation
3. 学会等名 The XIth Congress of the European Association for Jewish Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大澤耕史
2. 発表標題 ユダヤ教とキリスト教の自己認識とその境界 古代末期のシリアを中心に
3. 学会等名 京都ユダヤ思想学会第11回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kamoshida, Satoko
2. 発表標題 Teaching Yiddish and creating a field called ' Jewish Studies ' in Japan
3. 学会等名 International Forum of Young Scholars Alumni Workshop Marking the 15th Anniversary of the Nevzlin Center (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kamoshida, Satoko
2. 発表標題 Sholem Aleychem for Japanese
3. 学会等名 Leyvik House monthly meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kamoshida, Satoko
2. 発表標題 Ladino, judeo-espanol, porque vinimos de Espana
3. 学会等名 III Congreso Internacional sobre el espanol y la cultura hispana en Japon (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kamoshida, Satoko
2. 発表標題 Culture, history and people: key factors for success of Judeo- Espanol education for non-Jews
3. 学会等名 8th Annual ucLADINO Judeo-Spanish Symposium La Boz del Pueblo: Voices of Sephardic Jews (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 志田雅宏
2. 発表標題 民話のなかのナフマニデス：神の名前の使い手
3. 学会等名 京都ユダヤ思想学会第11回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 志田雅宏
2. 発表標題 アブラハム・アブラフィアにおける粗雑な「三つの指輪の物語」
3. 学会等名 日本宗教学会第77回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 志田雅宏
2. 発表標題 中世ユダヤ教におけるキリスト教論駁と福音書翻訳 ヤコブ・ベン・ルーベン『主の戦い』
3. 学会等名 中世哲学会第67回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 志田雅宏
2. 発表標題 ハイム・イブン・ムーサ『盾と槍』 15世紀の宗教論争とその知的背景
3. 学会等名 CISMOR Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 志田雅宏
2. 発表標題 ナフマニデス(1194 - 1270)とキリスト教世界
3. 学会等名 日本ユダヤ学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shida, Masahiro
2. 発表標題 Nahmanides in Folklore: Master of the Divine Name
3. 学会等名 The XIth Congress of the European Association for Jewish Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 志田雅宏
2. 発表標題 中世ユダヤ教世界におけるイエス 聖書解釈と民間伝承
3. 学会等名 上智大学キリスト教文化研究所(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 志田雅宏
2. 発表標題 神の名前の使い手 中世ユダヤ教民間伝承におけるキリスト教世界への対抗物語
3. 学会等名 西洋中世学会第11回大会公開シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 飯郷友康
2. 発表標題 神の完全な戯れ
3. 学会等名 第8回世界文学・語圏横断ネットワーク研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 飯郷友康
2. 発表標題 笑の形 コヘレト 2:2 考
3. 学会等名 日本聖書学研究所例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大澤耕史
2. 発表標題 著書『金の子牛像事件の解釈史』（教文館、2018年）について
3. 学会等名 科学研究費補助金助成研究（基盤 A）「『ユダヤ文献』の構成の領域横断的研究」主催合同合評会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤哲平
2. 発表標題 著書『ヒエロニムスの聖書翻訳』（教文館、2018年）について
3. 学会等名 科学研究費補助金助成研究（基盤 A）「『ユダヤ文献』の構成の領域横断的研究」主催合同合評会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤哲平
2. 発表標題 ヒエロニムスとルフィヌスの翻訳論争：オリゲネス『諸原理について』をめぐって
3. 学会等名 日本通訳翻訳学会第19回年次大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤哲平
2. 発表標題 哲学としてのユダヤ教とキリスト教：ギリシア文学、第四マカベア書、ヨセフス、教父
3. 学会等名 日本基督教学会第66回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kato, Teppei
2. 発表標題 Plus or Minus? Epiphanius and Jerome on Critical Signs
3. 学会等名 12th Annual Conference of the Asia-Pacific Early Christian Studies Society (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kato, Teppei
2. 発表標題 Ancient Chronography on Abraham's Departure from Haran: Rewritten Scriptures, Josephus, Rabbinic Literature, and Jerome
3. 学会等名 Workshop of the 16th CISMOR Seminar by Prof. Emanuel Tov: The Biblical Dead Sea Scrolls as Representing Variety in Judaism and Early Christianity (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤哲平
2. 発表標題 著書『ヒエロニュムの聖書翻訳』（教文館、2018年）について
3. 学会等名 京都ユダヤ思想学会 第2回関東大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kato, Teppei
2. 発表標題 Jerome's Real Purpose of Hebraica Veritas in Light of His Prefaces to the Latin Translation of the Bible
3. 学会等名 CISMOR 2018 Third Workshop of Young Scholars: Political, Social and Religious Perspectives in the Modern and Ancient Middle East (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤哲平
2. 発表標題 経典の「更新」としての翻訳：ギリシア語訳とラテン語訳聖書をめぐる諸問題から
3. 学会等名 京都・宗教系大学院連合（K-GURS）2018年度公開シンポジウム「経典の翻訳：その意義と課題」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤哲平
2. 発表標題 ギリシア語翻訳者としてのヒエロニュムス
3. 学会等名 日本基督教学会2018年度近畿支部会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 嶋田英晴
2. 発表標題 マイモニデスと商業契約文書
3. 学会等名 日本宗教学会第77回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 嶋田英晴
2. 発表標題 中世イスラーム下のユダヤにおける初等教育
3. 学会等名 「イスラエル国ガリラヤ地方の新出土シナゴーク資料に基づく一神教の宗教史再構築」(研究代表者:市川裕)シンポジウム「宗教的实践 知の獲得・伝授と教育」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Aoki, Ryoka
2. 発表標題 An Examination of Comparison Between Jewish Ethics of Western Europe and Eastern Europe
3. 学会等名 The XIth Congress of the European Association for Jewish Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yahalom, Joseph and Katsumata, Naoya
2. 発表標題 Ibn Abitur between Fustat and Cordova; Two Jewish Cultural Centers at the Turn of the Eleventh Centur
3. 学会等名 The Ninth Medieval Hebrew Poetry Colloquium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ichikawa, Hiroshi
2. 発表標題 The Historical Significance of A Newly Discovered Synagogue in the Galilee, Israel
3. 学会等名 The XIth Congress of the European Association for Jewish Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 市川裕
2. 発表標題 古代ユダヤ教の贖罪と悔い改め 心の内と儀礼
3. 学会等名 日本聖書学研究所公開講座(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 市川裕
2. 発表標題 近代ユダヤ教正統主義におけるコスモスとアンチコスモス
3. 学会等名 日本宗教学会第77回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 市川裕
2. 発表標題 神殿とシナゴーク: ラビ・ユダヤ教への宗教史的視点から
3. 学会等名 日本ユダヤ学会公開シンポジウム『古代ユダヤ教研究の諸相』
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mukai, Naoki
2. 発表標題 On an eschatological tone of Wissenschaft des Judentums
3. 学会等名 The XIth Congress of the European Association for Jewish Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 向井直己
2. 発表標題 レオポルト・ツンツと初期ユダヤ学の(諸)展望
3. 学会等名 日本ユダヤ学会第15回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masahiro SHIDA
2. 発表標題 How Did Nahmanides Describe the Christian World? : Origin, Peple, History
3. 学会等名 The 17th World Congress of Jewish Studies (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 志田雅宏
2. 発表標題 アブラハム・アブラフィアの預言論
3. 学会等名 日本宗教学会第76回学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Masahiro SHIDA
2. 発表標題 Beyond the Age of the Torah: Nahmanides (1194-1270) and Two Polemical Contexts
3. 学会等名 The 6th International Conference on Values in Religions
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shinichi Yamamoto
2. 発表標題 The Last Step of Jacob Frank 's Odyssey for the True Religion
3. 学会等名 The Center for the Study of Conversion and Inter-Religious Encounters. Ben-Gurion University of the Negev (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shinichi Yamamoto
2. 発表標題 Iconography of Sabbateanism?[Hebrew]
3. 学会等名 Memorial Event for the Publication of?The History of the Sabbatean Movement. The Schocken Institute for Jewish Research (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鴨志田聡子
2. 発表標題 ユダヤ人の多様な言語 イディッシュ語とラディノ語を中心に
3. 学会等名 球ことば村 ことばのサロン (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鴨志田聡子
2. 発表標題 建国が生んだ「ディアスポラ」：エジプトのユダヤ人の場合
3. 学会等名 関西パレスチナ研究会2017年度第3回研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 市川裕
2. 発表標題 アメリカ合衆国における東欧ユダヤ教
3. 学会等名 日本ソール・ペロー協会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 市川裕
2. 発表標題 ユダヤ教の法と伝承 タルムードはなにを議論しているのか
3. 学会等名 日本オリエント学会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Koji OSAWA
2. 発表標題 The Similarities and Differences between the Biblical Interpretations of Tannaitic and Amoraic Judaism and Contemporary Syriac Christianity: The Case of the Golden Calf Story
3. 学会等名 The 17th World Congress of Jewish Studies（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 青木良華
2. 発表標題 ユダヤ教の倫理におけるサランターの思想に関する一考察
3. 学会等名 日本宗教学会第76回学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Teppei Kato
2. 発表標題 Hebrews, Apostles, and Christ: Three Arbiters of Jerome's Hebraica Veritas
3. 学会等名 Annual Meeting of the North American Patristics Society (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Teppei Kato
2. 発表標題 Presenting Jews as Philosophers: The Image of the Jews in Greek Literature and the Jews' Self-Image in Judeo-Hellenistic Literature
3. 学会等名 Annual Meeting of the Society of Biblical Literature (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Naoki MUKAI
2. 発表標題 Reconstructing Politics in the Diaspora: Discourses on the Council of Four Lands at the end of the Nineteenth Century
3. 学会等名 The 17th World Congress of Jewish Studies (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kotaro HIRAOKA
2. 発表標題 Martin Buber and Shmuel Yosef Agnon on the Jewish Renaissance
3. 学会等名 The 17th World Congress of Jewish Studies (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 嶋田英晴
2. 発表標題 ユダヤ共同体とムスリム政府との相互関係ー中世エジプトの場合ー
3. 学会等名 日本宗教学会第76回学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 根本豪
2. 発表標題 理性の前の宗教 クザリとその射程
3. 学会等名 本研究主催シンポジウム「『クザリ』 文学・哲学的創造とその伝承」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 飯郷友康
2. 発表標題 近世におけるクザリ受容の一例
3. 学会等名 本研究主催シンポジウム「『クザリ』 文学・哲学的創造とその伝承」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 長塚織人
2. 発表標題 ユダヤスペイン語文学における対話と弁証 アブラハム・カボンの親スペイン的小品を例に
3. 学会等名 本研究主催シンポジウム「『クザリ』 文学・哲学的創造とその伝承」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 赤尾光春
2. 発表標題 自伝と自律 ユダヤ啓蒙主義からヘブライ文化ルネサンスへ
3. 学会等名 科学研究費補助金基盤(B)「『ユダヤ自治』再考」主催公開シンポジウム「ユダヤ人と自治」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 向井直己
2. 発表標題 「ユダヤ自治」の現実性と潜在性 「四邦評議会」末期の活動から
3. 学会等名 科学研究費補助金基盤(B)「『ユダヤ自治』再考」主催公開シンポジウム「ユダヤ人と自治」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山本伸一
2. 発表標題 後期シャブタイ派とユダヤ人社会の分断
3. 学会等名 科学研究費補助金基盤(B)「『ユダヤ自治』再考」主催公開シンポジウム「ユダヤ人と自治」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Shinichi Yamamoto
2. 発表標題 The Formation of the Sabbetean Historiography: Heresy, Tragedy and Zionism
3. 学会等名 Guest Lecture at the Goldstein-Goren Department of Jewish Thought, Ben-Gurion University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 志田雅宏
2. 発表標題 ユダヤ教の定義をめぐる諸研究 方法と課題
3. 学会等名 日本宗教学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 志田雅宏
2. 発表標題 『トルドート・イエシュ』におけるイエス物語の論争性
3. 学会等名 本研究主催シンポジウム「ユダヤ版『イエス伝』」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山城貢司
2. 発表標題 Toledot Sefer Toledot Yeshu: 猶太的反福音調和
3. 学会等名 本研究主催シンポジウム「ユダヤ版『イエス伝』」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 向井直己
2. 発表標題 歴史・伝記・物語 Leben JesuとToledot Yeshu
3. 学会等名 本研究主催シンポジウム「ユダヤ版『イエス伝』」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鴨志田聡子
2. 発表標題 イディッシュ語とは何語か
3. 学会等名 ランチョンリングイスティックス
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kamoshida, S (Satoko)
2. 発表標題 Yiddish as a Foreign Language in Japan
3. 学会等名 Yiddish in the New Millenium: A Symposium on New Yiddish Language and Culture (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kamoshida, S (Satoko)
2. 発表標題 Eastern European Jews in Israel
3. 学会等名 The Almuni Workshop of the International Forum of Young Scholars on East European Jewry in Jerusalem
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 青木良華
2. 発表標題 イスラエル・サラントーの思想とその歴史的・社会的背景
3. 学会等名 日本ユダヤ学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 市川裕
2. 発表標題 唯一神教の二つの流れとその源流
3. 学会等名 日本宗教学会 パネル「唯一神教の世界宗教史的再考」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ichikawa, Hiroshi
2. 発表標題 Talmudic Discussion in Japanese: On the Possibility of Cultural Innovation
3. 学会等名 CISMOR Annual Conference on Jewish Studies (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 嶋田英晴
2. 発表標題 ハラージュ(地租)とユダヤ教徒の法的対応
3. 学会等名 科学研究費補助金基盤(A)「ユダヤ・イスラーム宗教共同体の起源と特性に関する文明史的研究」研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 嶋田英晴
2. 発表標題 中世イスラーム支配下のユダヤ社会の変容
3. 学会等名 新学術領域『現代文明の基層としての古代西アジア文明』
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 嶋田英晴
2. 発表標題 イスラーム統治下のユダヤ教徒に関する通史的視点の考察
3. 学会等名 日本宗教学会 パネル「唯一神教の世界宗教史的再考」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Joe Sakurai
2. 発表標題 Rethinking Jewishness: Conversion as a Discursive Construction of Jewish Bodies
3. 学会等名 Association for Jewish Studies, the 48th Annual Conference
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計19件

1. 著者名 Naoya Katsumata	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Carmel	5. 総ページ数 412
3. 書名 Joseph Yahalom, Naoya Katsumata and Gabriel Wasserman, Political Power and Prayerful Poetry; The Life and Works of Samuel ben Hosha'na (Jerusalem, Turn of the Eleventh Century), Hebrew Texts with English Translation	

1. 著者名 志田雅宏	4. 発行年 2018年
2. 出版社 リトン	5. 総ページ数 376
3. 書名 杉木恒彦・高井啓介編『霊と交流する人びと 媒介者の宗教史』下巻	

1. 著者名 志田雅宏	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 288
3. 書名 藤原聖子編『いま宗教に向きあう3 世俗化後のグローバル宗教事情』	

1. 著者名 Naoya Katsumata	4. 発行年 2019年
2. 出版社 De Gruyter	5. 総ページ数 339
3. 書名 Joachim Yeshaya, Elisabeth Hollender and Naoya Katsumata (eds.), The Poet and the World, Festschrift for Wout van Bekkum on the Occasion of His Sixty-fifth Birthday	

1. 著者名 市川裕	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 189
3. 書名 ユダヤ人とユダヤ教	

1. 著者名 市川裕	4. 発行年 2018年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 382
3. 書名 澤井 義次、鎌田 繁編 『井筒俊彦の東洋哲学』	

1. 著者名 市川裕	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 272
3. 書名 東大EMP、中島 隆博編 『東大エグゼクティブ・マネジメント 世界の語り方 2』	

1. 著者名 Shinichi Yamamoto (ed.)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Schocken Institute for Jewish Research and Schocken Books	5. 総ページ数 408
3. 書名 Gershom Scholem, History of the Sabbatian Movement: Lectures given at the Hebrew University of Jerusalem 1939-1940	

1. 著者名 山本伸一(共著)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 392
3. 書名 小澤実編 『近代日本の偽史言説』	

1. 著者名 山本伸一(共著)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 リトン	5. 総ページ数 414
3. 書名 江川純一・久保田浩編 『「呪術」の呪縛』下巻	

1. 著者名 大澤耕史	4. 発行年 2018年
2. 出版社 教文館	5. 総ページ数 220
3. 書名 金の子牛像事件の解釈史	

1. 著者名 加藤哲平	4. 発行年 2018年
2. 出版社 教文館	5. 総ページ数 364
3. 書名 ヒエロニムスの聖書翻訳	

1. 著者名 嶋田英晴(共著)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 400
3. 書名 柴田大輔・中町信孝編 『イスラームは特殊か』	

1. 著者名 Teppeï Kato	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Leuven Peeters	5. 総ページ数 XVII+695
3. 書名 Markus Vinzent (ed.) , Studia Patristica 98: St Augustine and His Opponents	

1. 著者名 平岡光太郎 (共著)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 教文館	5. 総ページ数 304
3. 書名 小原克弘・勝又悦子編 『宗教と対話 - 多文化共生社会の中で - 』	

1. 著者名 勝又直也 (勝又悦子との共編著)	4. 発行年 2016年
2. 出版社 教文館	5. 総ページ数 352
3. 書名 『生きるユダヤ教 -カタチにならないものの強さ-』	

1. 著者名 赤尾光春・向井直己 (編著)、山本伸一 (共著)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 329
3. 書名 『ユダヤ人と自治 中東欧・ロシアにおけるディアスポラ共同体の興亡』	

1. 著者名 Wout van Bekkum and Naoya Katsumata (共著)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Brill Academid Publisher	5. 総ページ数 340
3. 書名 Joachim Yeshaya and Elisabeth Hollender (eds.), Exegesis and Poetry in Medieval Karaite and Rabbanite	

1. 著者名 山本伸一 (共著)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 リトン	5. 総ページ数 414
3. 書名 江川純一・久保田浩編 『「呪術」の呪縛』下巻	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	市川 裕 (Ichikawa Hiroshi) (20223084)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授 (12601)	
研究分担者	赤尾 光春 (Akao Mitsuharu) (90411694)	大阪経済法科大学・公私立大学の部局等・研究員 (34427)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	向井 直己 (Mukai Naoki)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	志田 雅宏 (Shida Masahiro)		
研究協力者	大澤 耕史 (Osawa Koji)		
研究協力者	加藤 哲平 (Kato Teppei)		
研究協力者	鴨志田 聡子 (Kamoshida Satoko)		
研究協力者	飯郷 友康 (Iigo Tomoyasu)		
研究協力者	嶋田 英晴 (Shimada Hideharu)		
研究協力者	山本 伸一 (Yamamoto Shinichi)		
研究協力者	平岡 光太郎 (Hiraoka Kotaro)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	根本 豪 (Nemoto Suguru)		
研究協力者	青木 良華 (Aoki Ryoka)		
研究協力者	李 美奈 (Lee Mina)		
研究協力者	山城 貢司 (Yamashiro Koji)		
研究協力者	櫻井 丈 (Sakurai Jo)		
研究協力者	長塚 織人 (Nagatsuka Orihito)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------

オランダ	Groningen University			
イスラエル	Hebrew University	Ben Gurion University		
米国	Yeshiva University			
ベルギー	KU Leuven			
ドイツ	Goethe University Frankfurt			